

えであ

立川と語ろう 立川に生きよう

October 2025

Écoutez Bien Vol.42 No.487

10

立川病院
7回目の
キッズセミナー





そば処 高尾亭

立川老舗のお蕎麦屋さん

近ごろちょっと話題になったお蕎麦屋さんです。お店入口付近に「取調室」ができていて、逮捕されずにかつ丼が食べられるという話。でも、ここではまったく違うメニューをご紹介します。若き店主のおススメがこちらです。まだまだ暑い日には「冷しゃぶ蕎麦」。サラダ感覚でいただけます。蕎麦好きに「天ざる蕎麦」は外せないでしょう。カレーつけ麺も捨てがたい。立川ではちょっと珍しい「鶏天そば定食」。ガッツリです。



冷しゃぶ蕎麦



天ざる蕎麦



カレーつけ麺 ご飯ももらえます



一品料理から イカ焼き



鶏天そば定食

そば処 高尾亭
立川市錦町5-5-31
042-522-2710
営業時間 11:00~15:00
17:00~20:00
定休日 日曜日
出前してくれます

第7回 立川病院キッズセミナー

医療の内側を見てみよう

2025年7月19日(土)、錦町にある立川病院でキッズセミナーが開催された。午前34名、午後33名、計67名の子どもたちが参加した。普段は知ることのできない医療従事者の仕事を知ること、子どもたちは何を感じただろうか。

セミナー開催前に、立川病院の片井均院長から挨拶があった。「皆さん、病院で働いている人という医師、看護師はわかるでしょうが、そのほかにも多くの医療職の職員が働いています。また、医療行為には直接関与しませんが、病院運営にはかかせない事務の職員も含めると、本当に多岐にわたる職種が存在します。

今日は普段では見ることができない病院の内側を見てもらいます。そこでいろいろな仕事を体験してもらったり、勉強してもらおうということです。楽しい体験もたくさん用意してありますので、存分に楽しんでもらいたいと思っています。1人でも多くの方が私たちの仕事に触れて、患者さんを助けたり命を救ったりするのにたくさんの人が関わっているということ、命の大切さを知って頂いて、医療に興味を持ってもらえたらいいと思っています。」

ホームページ等で募集したところ、近隣市、中には23区からも参加があった。子どもたちは、医療現場で着用されているスクラブを借りて、6班に分かれて研修医の引率でセミナーを開始。未来の外科医を生み出す取り組みに「※ブラックジャックセミナー」があるが、立川病院では病院全体を見ることが大切と考え、手術に限らず、放射線科、感染制御部、内視鏡や手術ロボット、薬剤科や検査科など幅広く医療の現場を体験してもらっている。

約2時間のツアーを終えて、中学生に聞いてみた。

— 将来はお医者さんになるの？

「今、やりたいことが2つあって、その1つが医療の道です。なれるかなれないかわからないけれど、今日、やってみたいと思いました」

— 何科のお医者さん？

「外科医です」

このツアー、少なからず医療現場への理解と興味を生むのではないか。

※えくてびあん2012年7月号参照 多摩ではこネットのえくてびあんバックナンバーに掲載

片井均院長



薬剤耐性菌を知る(感染制御部)



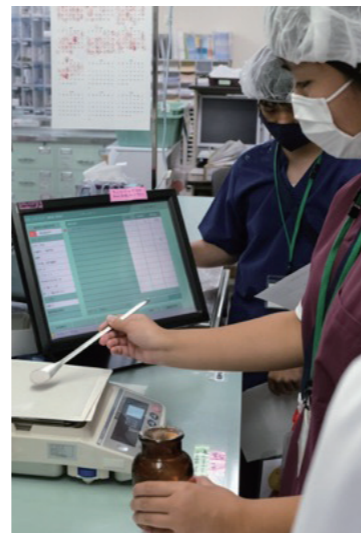
透視画像を読み解く(放射線科)



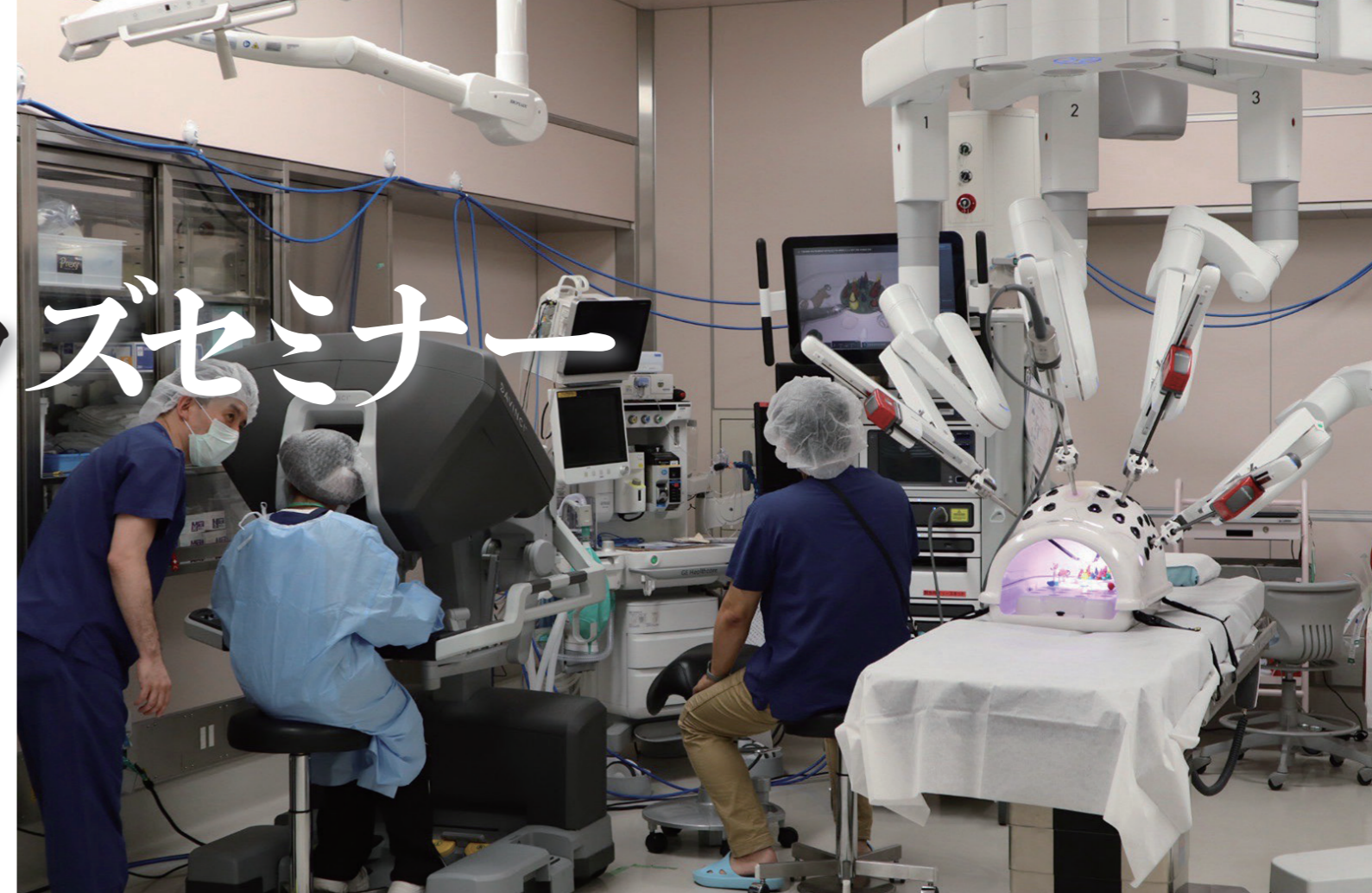
放射線科



血液型を調べる(検査科)



調剤体験(薬剤科)



手術ロボットの操作体験(手術室) [写真提供:立川病院]



MRIの3D画像操作(放射線科)



腹腔鏡手術トレーニング(手術室)



手術用顕微鏡の体験(手術室)



スタッフ挨拶



修了証授与

「ぬい活」は新たな癒し

～羊毛フェルトのぬいぐるみ～

かわいがってきた動物が亡くなって、
悲しみと虚しさでいっぱい心をなぐさめてくれるぬいぐるみ。
この子と出かけるのが新たな楽しみになっています。



根川のせせらぎ沿いや昭和記念公園、GREEN SPRINGSなどでは、毎日多くのワンちゃんがお散歩しています。どなたもワンちゃんは家族と言います。でも、ワンちゃんも命ある身。ある日、新聞にこんな内容の投稿を見つけました。

【かわいがっていた柴犬が亡くなってから、何もやる気が出なくなってしまい、食べることにテレビにも興味がわかず、人と触れ合うこともしなくなりました。いつもそばにいて愛らしい姿を見せてくれていたのに、その姿のない空虚さ。そんな時、お友達が亡くなった柴犬にそっくりなぬいぐるみをくれました。なんて、かわいいんでしょう。あの子にそっくり。以来、洗濯物を干すときも、ご飯を食べるときも、テレビを観るときも、買い物に行くときも、いつも一緒。私のあとをとことこついて来て、顔を見上げてしっぽをふってくれる、あの子と同じような姿にいつしか私も元気になりました。】

「たかが」「されど」のぬいぐるみ。「ぬい活」とは、「ぬいぐるみ活動」の略。Z世代のそれとは一線を画す「思い出系」「癒し系」の活動ですが、実際に羊毛フェルトのぬいぐるみを持っている方に取材すると、失った悲しみを乗り越えられ、むしろ以前より活動の幅が広がったとおっしゃいます。まさに、「ぬい活」は新たな癒し、なんですね。



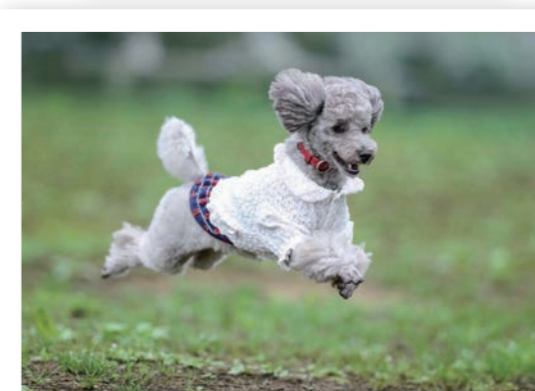
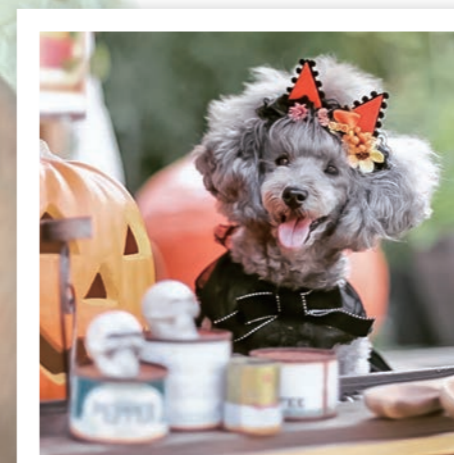
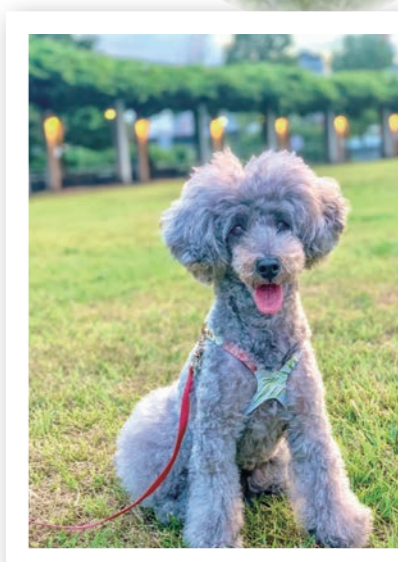
生前の姿とそっくりなぬいぐるみ



お友達とそのぬいぐるみたち



同じ場所で撮影したぬいぐるみと生前の姿



あの頃の立川

創刊から40年——㊥

昭和記念公園通り



昭和30年代後半、
第一デパートができる前の銀座通り
(写真提供：石川富美子さん)



2011年3月11日 大地震直後、
和菓子店の前にある公衆電話
人が並び始める



2012年9月に撮影 すでに閉店して
いる和菓子店、左は魚屋、ピンク色の
第一デパートの間はお茶屋だったか

AIに尋ねると、そんな名前の通りはありませんと答えてくるけれど、確か、昔は「銀座通り」と呼んでいた。通りの両側にたくさんのお店が並んでいた。道の突端にリーセントパークホテルがあり、総料理長として後のアイアンシェフ、脇屋友詞さんがいた。でこぼこの埃舞うホテル前の道を見て、こんな所に高級中華を食べにくるお客様はいないと思ったとか。何とかしてお客様を呼ぼうとシェフが考えたのは、当時まだ珍しい「ヌーベルシノワ」だったと聞いている。

(えくてびあんの写真から)

他の写真はこちらで

